

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2016年2月26日

[テーマ] 県内酒蔵“制覇”が宿題一飲んで減少歯止めを一

3カ月に一度の支店長会議で上京した時に、先輩の1人から「宿題には手を付けているか」と問われた。彼は高松支店長時代に四国霊場八十八カ所巡りを結願した人。私は群馬に赴任する際に彼から「任期中に任地で何かを達成せよ」という「宿題」をもらっていた。

「宿題」の存在自体を忘れていて不意を突かれた私は、次の瞬間、「群馬の酒蔵を全て制覇しました」と答えていた。その後の会話は正確には覚えていないが、「酒蔵はいくつあるの?」「31です」「半年余りでそれはすごいね」「どの銘柄も品質が高いのですよ。今度群馬のお酒を見かけたらぜひ試してみてください」といった内容だったと思う。話題が他に移る中、私は居心地の悪さを感じていた。

なぜかと言うと、まず、私は実際に酒蔵を訪ねたわけではない。飲食店で口にただけである。先輩はきっと私が自分の足で全ての酒蔵を訪ねたと思ったであろう。

次に、各酒蔵が複数の銘柄を醸している中、私は一つか二つの銘柄を試しただけである。全ての銘柄を試さなければ、完全に制覇したとは言えない。

そしてもう一点、これが一番重要であるが、以前から頻繁に群馬に遊びに来ていた私は、赴任以前におよそ半数の銘柄を口にしていた。流通量が少ない銘柄については、こちらに来て初めて味わたったのであるが、それらも各地の新年会に参加する中で難なく口にすることができた。

当然のことながら、達成感などない。そこであらためて、自分の足で酒蔵を訪ねることにした。登録商標が認められた「群馬の地酒」である。まだ試していない残りの銘柄もちゃんと味わいたいと思っている。

現時点で訪れた酒蔵の数はまだ片手程度であるが、その中で分かったことは、後継者難もあって県内の酒蔵の数が急速に減少していること。31というのは既に古い数字で今は30を切っている。このままではいけない。皆で応援しなくては。県外にいる友人にもたくさん飲んでもらおう。この際、群馬のお酒の人气が上がって入手しづらくなったらどうしようなんて、ケチな心配はやめる。そうなったら、それこそ飲み手<sup>みょうり</sup>冥利に尽きるということである。

冬の味覚に合うと思うお酒は？（複数回答可）

日本酒	62.7%
本格焼酎	35.6%
ワイン	31.7%
甲類焼酎	29.0%
ウイスキー	26.4%
ビール類	21.6%
梅酒・リキュール	15.4%
チューハイ・カクテル	11.4%

（出所）宝酒造「日本酒に関する意識調査 2013」

（ 日本銀行前橋支店長  
          神山 一成 ）